



日本視覚障害者団体連合のシンボルマーク

愛盲時報

令和5年7月25日（火）第279号

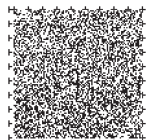
発行所：社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
 〒169-8664 東京都新宿区西早稲田2-18-2
 発行人：竹下 義樹／編集人：吉泉 豊晴
 電話：03-3200-0011／FAX：03-3200-7755
 URL：http://nichimou.org/
 Eメール：jouhou@jfb.jp（情報部）

おしらせ
 この愛盲時報は鉄道弘済会の
 不動産賃貸事業などの益金等、
 日本盲人福祉委員会の愛盲シー
 ル維持会費の中から贈られた
 寄付金などで作られたものです。

第76回全国視覚障害者福祉大会 まほろばの国 奈良で開催



【写真】日本視覚障害者団体連合 竹下義樹会長（右）と奈良県視覚障害者福祉協会 辰巳壽啓会長（左）



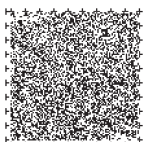
今年もハイブリッド方式で

日本視覚障害者団体連合（以下、日視連）と奈良県視覚障害者福祉協会主催による第76回全国視覚障害者福祉大会（奈良大会）が、奈良県ならけん橿原市のDAIWAダイワROYAL HOTEL THE KASHIHARAロイヤル ホテル ザ カシハラを会場に5月21日から5月22日まで開催されました。今大会は、昨年と同様にリアル参加とオンライン参加を交えたハイブリッド方式で開催され、2日間をとおして全国から多くの視覚障害当事者の参加がありました。

今大会はシンポジウムも開催

1日目には、「踏切と横断歩道の安全を考えるシンポジウム」が開催されました。令和3年8月にしずおかけん静岡県みしまし三島市で、令和4年4月にはならけん奈良県やまとこおりやまし大和郡山市で、踏切内において視覚障害者が列車と接触し死亡する事故が起きました。それらの事故を振り返り、二度と起こらないようにするべく、その方策を考える目的で企画・実施されました。

始めに、にっぽんほこうくねんしかい日本歩行訓練士会ふるはしともりの古橋友則会長による「静岡・奈良での視覚障害者踏切事故と、道路横断を



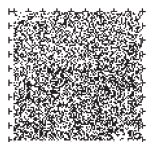
含めた日本歩行訓練士会の取り組み」と、国土交通省道路局企画課おおにしりょうへい大西良平課長補佐による「国土交通省が進める安全対策について」と題した基調報告が行われました。



【写真】

昨年4月に事故があった奈良県大和郡山市の近鉄橿原線の踏切

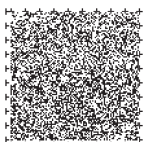
その後、コーディネーターとして慶應義塾大学経済学部なかのやすし中野泰志教授と、登壇者として奈良県視覚障害者福祉協会の役員を加え、パネルディスカッションが行われました。登壇者の方々に、実際に踏切や横断歩道を歩いた時の実感やひやりとした体験などを伺いながら、報告者である古橋氏や大西氏の意見も交えて議論は進められました。視覚障害者の踏切と横断歩道における危険な現状を把握し、安全対策を進める方策を探る討論の場となりました。



最後に今回のシンポジウムの締めくくりとして、視覚障害者が「踏切と道路を安全かつ安心して横断できることを実現するための奈良宣言」が満場一致で採択されました。日本視覚障害者団体連合 ^{たけしたよしき} 竹下義樹会長は「今日のシンポジウムはスタートに過ぎない。視覚障害者の踏切や横断歩道における問題というのはまさに緊急の課題であって、命が奪われた後では取り返しがつかない。これまで犠牲になった人達の命を無駄にしないためにも、速やかに問題に取り組んでいかなければならない。今日のシンポジウムや奈良宣言の内容を国に要求するだけでは不十分であり、日視連が国交省と連携していき、我々ができることをしなければいけない。自分たちで、我々の仲間たちがより安全に社会参加、日常生活が送れるような環境をつくと決意したい」と総括しました。



【写真】シンポジウムの様子



踏切と道路を安全かつ安心して横断できることを

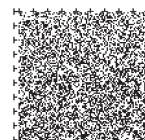
実現するための奈良宣言



令和3年8月には静岡県三島市で、令和4年4月には奈良県大和郡山市で、踏切内において視覚障害者が列車と接触し死亡する事故が発生した。また、平成30年12月には東京都豊島区で、早朝の横断歩道において通勤途上の視覚障害者が自動車と接触し死亡する事故も発生している。

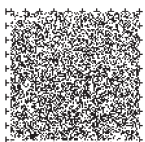
これらの死亡事故以外にも、ニアミスやヒヤリ・ハットを経験した視覚障害者は数え切れず、視覚障害者にとって、踏切や横断歩道は、危険な場所となっている。踏切や横断歩道は全国各地にあるため、安全性が確保されなければ、視覚障害者の日常生活・社会生活に大きな影響を及ぼす。

私たちはこのような痛ましい事故が二度と起こらないようにすると同時に、視覚障害者が踏切や横断歩道を安全に安心して利用できるような社会が1日も早く実現できることを求める。特に、国や道路管

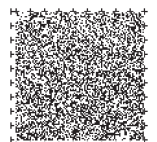


理者、鉄道事業者等に対して必要な安全対策を早急に実現することを強く求める。

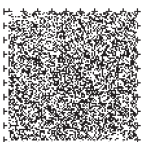
まず、視覚障害のある人は、安全に安心して踏切を横断する権利を有する。しかし、現状では、音響や触覚的な手掛かりがないため、踏切がどこに設置されているかが分からない。近くに踏切があることが分かったとしても、踏切がどこから始まり、どこで渡り終えたのかを知るための手掛かりがない。また、踏切を横断する際、歩行導線を示す誘導路が存在していないため、線路内に立ち入ってしまう等の危険性がある。さらに、もし万が一、踏切内に立ち入った直後に、遮断機が閉じ、踏切内に閉じ込められてしまった際、安全に安心して退避する方法が分からない。そのため、音^{おと}サイン等で踏切の場所を示したり、踏切の始まりと終わりが分かるような触覚的な手掛かりを設置したり、踏切内の誘導路を示したり、緊急時の避難方法を示したりする等の対策が急務である。これらの安全対策について可及的速やかに、実証実験等を実施した上で、ガイドラインに盛り込み、全国に普及させることを強く求める。



次に視覚障害のある人は、いつでも、安全に安心して横断歩道を横断する権利を有する。しかし、現状では、「視覚障害者誘導用ブロック（点字ブロック）」が敷設されていなかったり、敷設方法が不適切だったり、老朽化していて機能していなかったりする場合があります、横断歩道の場所を知ることが困難な場合がある。また、国のガイドラインにも記載されている歩車道の境界を示す「2cmの段差」がないために、間違っ て車道に出てしまう危険性のある場所もある。さらに、道路を横断する際に必要な「音響式信号機」や「エスコートゾーン」が設置されていなかったり、老朽化して機能してなかったり、時間によって音が止まっているために、車道に迷い出て事故に遭遇する危険性の高い場所もある。そのため、横断歩道の場所が分かるように点字ブロックを適切に敷設・保守点検したり、車歩道の境界を示す「2cmの段差」を確保したり、車道に逸れることなく道路を横断するために必要な「音響式信号機」や「エスコートゾーン」を全ての横断歩道に設置する等の対策が急務である。特に、「音響式信



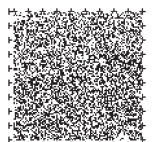
号機」の運用に際しては、時間制限等によって停止する場合でも、視覚障害者の安全が脅かされないように留意する必要がある。これらの安全対策について可及的速やかに、ガイドラインに盛り込み、全国に普及させることを強く求める。なお、点字ブロックの色や敷設方法、特に、隅切りのある道路における点字ブロックの適切な敷設方法等については、早急に実証実験等を実施し、ガイドラインに反映させる必要がある。



最後に、踏切や道路を確実に横断するためには、私たち視覚障害者も自身の歩行について確認することが必要である。また私たちも踏切や交差点の構造を知り、どこにどのような形式の踏切や交差点があるかを知っておくことも必要である。そのためには、国や関係機関が、これらの情報を私たちが理解できる形式で提供しておくことも必要である。これらの情報を踏まえた上で、歩行訓練士の協力も得ながら、自らの歩行を見直す機会を持たなければならない。また、必ずしも一人で踏切や道路を横断するのではなく、不安なときは周りの人に援助依頼をすることも必要である。私たちは、これら必要な対策を関係機関に求め、自らも考えることにより、踏切や道路を確実に横断できることを熱望し、ここに宣言する。

【右写真】

宣言を読み上げる奈良県視覚障害者福祉協会の
辰巳壽啓会長

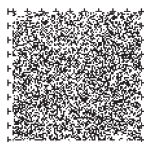


令和5年度 第1回全国団体長会議 開催



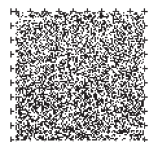
【写真】全国団体長会議の様子

シンポジウムに続き1日目には、令和5年度第1回全国団体長会議が、オンライン参加も交え、全国の加盟団体および協議会の代表者が参加し開催されました。^{おいかわきよたか}及川清隆日視連副会長の司会、^{たつみとしひろ}辰巳壽啓奈良県視覚障害者福祉協会会長と^{むらかみよしつぐ}村上芳継熊本県視覚障がい者福祉協会・団体会長の議事進行の下、令和5年度の運動方針（案）および団体提出議案について議論が行われました。



運動方針（案）について竹下^{たけした よしき}義樹日視連会長は、障害者差別解消法の改正や国連障害者権利委員会の総括所見に実効性を持たせ、あるいは学校教育において障害者に関する啓発・人権教育を促すことについて、視覚障害当事者団体が果たす役割が大きいこと、移動の安全確保は命に関わる急務であり、情報保障は視覚障害者の永遠の課題であり改善を求めていくこと、あはきを就きたいと思う職業とするための方策を検討するとともに就労移行支援事業にも取り組むこと、雇用と福祉の連携による重度障害者等就労支援特別事業の拡充等により一般就労を含めて進展させること、^ギ ^ガG I G Aスクール構想で視覚障害児が取り残されないよう支援策を検討し求めていくこと、英国の^エ ^ク ^ロE C L Oを参考にしつつ医療と福祉の連携を図ること、地域により差がある災害対策（ハザードマップ作成等）の促進を求めていくこと、ブラインドスポーツなどの振興を図ることなどを説明しました。

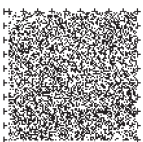
参加者からは、中途視覚障害者の加盟団体への入会を増やす取り組みが必要であること、買い物難民が生まれないようサポーターが必要であること、乗降客数



が多い駅を重点に環境整備するだけでは不十分なこと、政治活動に同行援護事業を利用することについて日視連としての方針を示す必要があること、その他、ハザードマップ作成の現状等について発言がありました。

それらに対し竹下会長は、医療と福祉の連携を図る中で中途視覚障害者の支援等に取り組むこと、買い物を含む日常生活にかかわる福祉サービスの充実を求めていくこと、視覚障害者の利用が多い駅や危険性の高い駅の整備を求めていくこと、同行援護の利用については厚生労働省とも協議しながら先送りすることなく検討することなどを述べました。

続く団体提出議案に関しては、4月に行われた生活、バリアフリー、職業の3つの分科会について各分科会の座長より説明が行われ、その後の質疑では、いわゆる盲学校でブラインドスポーツに取り組んでいないかのような誤解を招く表現は避けるべきこと、盲学校では生徒数減に伴い予算と専門性の維持が難しくなりつつあるが、インクルーシブ教育を含め教育の質を維持・向上させるよう求めるべきこと、それがひいて



は就労促進の基盤になることなどの発言がありました。

最後に、協議事項として、ガイドヘルパーの必要性を知ってもらいヘルパーの担い手確保につなげるため、改正障害者自立支援法が成立した12月3日を「視覚障害者ガイドヘルパーの日」とし、12月3日から公布された10日までをその記念週間として働きかけていくことを進めていきたい旨説明されました。

式典は今年もライブ配信



【写真】 式典の様子



2日目には、来場者に加えてYouTube配信の視聴者を交え、大会式典および大会議事が開催されました。

第1部の大会式典では、奈良県視覚障害者福祉協会の小山^{こやま}恵美^{めぐみ}理事の開会宣言、国歌・会歌斉唱、黙祷の後、奈良県視覚障害者福祉協会^{たつみとしひろ}辰巳^{たつみとしひろ}啓^{としひろ}会長から歓迎の挨拶が述べられました。

次に、日視連^{たけした よしき}竹下^{たけした よしき}義樹^{よしき}会長は主催者挨拶として、新型コロナウイルス感染症の影響が緩やかになる中で、ようやく全国から会員が参加できるようになったとしつつも、まだ以前のような多数の参加には至っておらず、来年以降、徐々に戻るようにしたいと

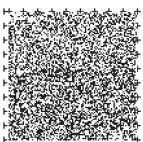


【写真】

主催者挨拶をする竹下義樹会長

述べた上で、今年、奈良で2日間の大会を開催できることの意味は大きいとし、全国大会の開催に向けてご尽力された地元会員の方々をはじめ多くの方に感謝の意をあらわしました。

続いて、日視連^{やました まこと}顕彰表彰式、山下^{やました まこと}真^{まこと}奈良県知事、^{かめただひこ}亀田^{かめただひこ}忠彦^{ただひこ}橿原市長、^{おくのしんすけ}奥野^{おくのしんすけ}信亮^{しんすけ}衆議院議員、^{はしもとがく}橋本^{はしもとがく}岳^{がく}衆議院議員・日視連顧問、並びに^{こばやししげき}小林^{こばやししげき}茂樹^{しげき}衆議院議員の来賓祝辞、



たかいちさなえ

高市早苗経済安全保障担当大臣・内閣府特命担当大臣のビデオ

メッセージ、^{もりたこうじ}森田浩司文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官による^{ながおかけいこ}永岡桂子文部科学大臣の祝辞代読の後、^{かとうかつのぶ}加藤勝信厚生労働大臣、^{さいとうてつお}齊藤鉄夫国土交通大臣、^{えとうせいいち}衛藤晟一参議院議員からの祝辞が披露されました。

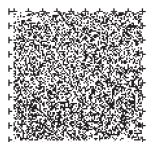
第2部の大会議事では、令和4年度決議処理報告、令和5年度運動方針を執行部の原案通り全会一致で可決。続いて宣言・決議も全会一致で採択されました。さらに、次年度の第77回大会開催地団体を代表して、熊本県視覚障がい者福祉協会・^{むらかみよしつぐ}団体の村上芳継会長から挨拶があり、来年6月2日と3日に熊本市で開催することが報告されました。

最後に、^{みぐちかづやす}奈良県視覚障害者福祉協会の三口雄康副会長から閉会が宣言され、拍手の中、来場者とオンライン視聴者を交えた2日間にわたる大会が幕を閉じました。



【写真】

次年度開催地を代表して挨拶する熊本県視覚障がい者福祉協会・団体の村上芳継会長





日視連顕彰被表彰者

(敬称略・順不同でご紹介します)

【村谷昌弘福祉賞】特別組織功労

えとうよしのり
衛藤良憲 (大分県)

【礎賞】組織功労

たけたとしみ (秋田県) かわさきえいいち (福島県) ほりぐちしゅんじ (山梨県)
武田利美 川崎栄一 堀口俊二

とうぞえせいじ (富山県) かねこよしひろ (愛知県) たじりあきら (京都府)
塘添誠次 金子芳博 田尻彰

とやまたつこ (堺市) よしだあきお (奈良県) やすだかずまさ (山口県)
外山龍子 吉田昭雄 安田和正

【青い鳥賞】福祉・文化功労

いしくろひろかず (札幌市) ないとうつねふみ (奈良県)
石黒宏和 内藤恒史

かいはつえ (奈良県) いまいずみかつじ (神戸市)
垣内初江 今泉勝次

【光の泉賞】内助等功労

そえだのりこ (札幌市)
添田紀子

いのうえくにこ (関東ブロック・千葉市)
井上久仁子

ふくき たきょうこ (関東ブロック・神奈川県)
福喜多恭子

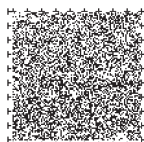
よねしまきょうこ (北信越ブロック・石川県)
米島京子

たけがわみつお (福井県)
竹川三男

すすきけいこ (東海ブロック・愛知県)
鈴木敬子

おおはしただこ (滋賀県)
大橋貞子

かわだひろみ (中国ブロック・岡山県)
川田弘美



いがいひとし
井貝 仁（四国ブロック・徳島県）

えとうふみえ
衛藤文江（九州ブロック・福岡市）

おおたあやこ
大田文子（九州ブロック・佐賀県）

【感謝状】

つほさかでらしゅうとくかい
社会福祉法人壺阪寺聚徳会

一般社団法人奈良県視覚障害者福祉協会（第76回全国視覚障害者福祉大会開催）

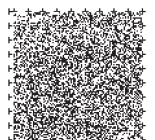


速報!! 新執行部決まる!

6月27日に日本視覚障害者センターを会場にオンラインで執り行われた令和5年度日視連定時評議員会では、役員を選任が行われました。理事・監事を選任の議案が審議され、執行部の原案通りに承認。新たに14名の理事、3名の監事が選任されました。

【右写真】

日本視覚障害者センターで行われた第4回理事会の様子。全国の理事、監事とオンラインで繋いで開催された



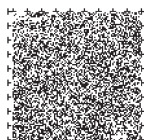
その後開催された第4回理事会では、会長に竹下義樹^{たけした よしき}氏、副会長に橋井正喜^{はしいまさき}氏、片岡美佐子^{かたおか み さ こ}氏、吉松政春^{よしまつまさはる}氏の3名が、常務理事に後藤英信^{ごとうひでのぶ}氏、三宅隆^{みやけたかし}氏の2名がそれぞれ選任されました。



【上写真】左から順に、竹下義樹会長、橋井正喜副会長、片岡美佐子副会長、吉松政春副会長



【左写真】
左から順に、三宅隆常務理事、後藤英信常務理事



東京都専門点訳奉仕員養成講習会受講者募集

日視連では、東京都の委託による「令和5年度専門点訳奉仕員養成講習会」を実施しています。

対象：点訳の知識と経験があり、受講後に都内で活動
できる方

期間：令和5年10月4日～令和6年2月22日

英語コース… 水曜日 10時～12時

理数コース… 木曜日 13時半～15時半

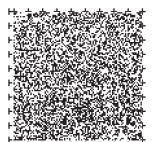
楽譜コース… 水曜日 13時半～15時半

定員・回数：各コースとも定員10名、全10回

申込書請求：8月1日～8月31日（必着）に希望コース名を明記した用紙と、住所・氏名を記入し94円切手を貼った返信用封筒（長形3号）を同封の上、下記まで郵送ください。申込時に課題提出と来館による試験があります。詳細は、日本視覚障害者団体連合ホームページ (<http://nichimou.org/all/news/braillelibrary-news/160804-toshokan/>) をご覧ください。

問い合わせ先：日視連点字図書館 講習会担当

（電話：03-3200-6160 内線番号：7番）



◆◆ご寄付のお願いについて◆◆

日本視覚障害者団体連合は視覚障害者自身の手で、
＜自立と社会参加＞を実現しようと組織された視覚障害者の全国組織です。

1948年（昭和23年）に全国の視覚障害者団体（現在は、都道府県・政令指定都市60団体が加盟）で結成され、国や地方自治体の視覚障害者政策の立案・決定に際し、当事者のニーズを反映させるため、陳情や要求運動を行っています。

活動内容は多岐にわたりますが、そのために必要な経費の確保は、厳しい財政の中困難を極めています。

視覚障害者福祉の向上を目指し、組織的な活動を維持していくため、皆様からの特段のご厚志を賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

■ゆうちょ銀行

記号番号 00160-5-536104

加入者名 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

■みずほ銀行

店名 高田馬場支店

預金種目 普通 口座番号 2868101

カナ氏名（受取人名）

フク)ニホンシカクショウガイシャダンタイレンゴウ

※領収証が必要な方、本連合が振り込み手数料を負担する専用の振込用紙をご希望の方は、日本視覚障害者団体連合までご連絡ください。

（電話：03-3200-0011）

